

陽の里

発行 平成13年8月1日

社会福祉法人 新生会

総合ケアセンター

サンビレッジ



No.75

2001年 **テーマ** 福祉機器の活用



▲自宅浴室の改修(手すり2カ所)により、自立した入浴ができるようになったEさん

福祉用具は生活用具

福祉用具を考える会代表 東畠弘子

このほど上梓した「事例で学ぶケアマネージャーのための福祉用具入門」には、サンビレッジの西脇麻里子さんが自助具について書いている。脳梗塞による右半身麻痺の女性の事例だ。スプーンいっぱいにくうため、むせてしまう。そのため、小さなシュガースパーンに替えると共に、握り部分にゴム状の柄をはめ込んだ。食器の見直しなどもあわせて行った結果、この方は食事が全介助から一部介助になり、生活への意欲も広がっていったという。

この事例から、私達はさまざまなことを学ぶことができるが、驚きなのは「スプーン一つで驚くほど変わる」ということだ。もちろん、シュガースパーンに替える前提として、専門職によるアセスメント、本人の状態・ニーズを見極めた上というのは前提だ。だが、たったこれだけのことで「生活が変わる」のだ。

市販されている機器だけが、福祉用具ではない。その人の足りない機能をサポートして、日常の生活を支援するのが福祉用具だ。だから、私は福祉用具は「生活用具」と考えている。開発と選定に求められるのは、その人らしい生活をいかに支援していくかという「理念・思い」なのだ。

障害者・高齢者の社会参加と福祉用具

岐阜県・福祉メディアステーション 企画・運営アドバイザー

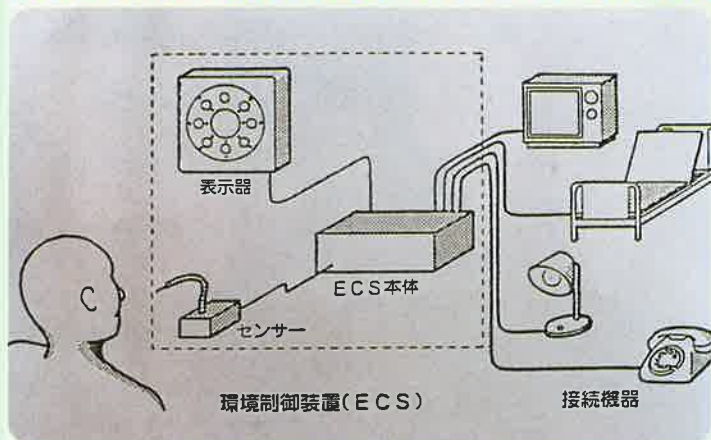
上村 数洋

21世紀を迎え、高齢化や少子化が叫ばれる中、医療や福祉に向けられる期待には大変大きなものがあります。そうした中で、介護保険制度等の導入に伴い、福祉用具が障害者や高齢者の自立と介護の取り組みにおいて、大きな役割を持つことが理解されるにつれ、その利用も大きく膨らもうとしています。

しかし、利用者のニーズに対応する適切な供給システム（開発も含む）は、必ずしも十分であるとはいえません。福祉用具が適切に供給されるためには、必要としている人はもちろんのこと、その人を支え、関わる人の中で、福祉用具は「生活の道具」「生活の必需品」として理解し、位置づけら

れる必要があります。

20年前、交通事故で四肢の機能を失った私は、リハビリテーション工学（福祉用具の研究開発を行う分野）との出会いのおかげで、受傷当時は「3年もてば…」とか「一生寝たきり…」と



言われていた生活が一変し、今では自分なりの目的意識を持ち、いろいろなことに挑戦し、充実した日々の生活を送ることが出来るようになりました。

身体に重い障害を持つ者にとつて、どんな些細なことであっても「自分に出来ることがある」ということは、即「生きる自信」につながります。生活の中で少し自信が出来る、外に向かって目が向き、心が開きます。思いきって外に出ていくと、多くの刺激と一緒に情報や知識が入ってきます。仲間も見つかり、人としての誇りを取り戻し、社会参加へとつながります。

障害者や高齢者の社会参加を考えた時、これまではどちらかというと社会基盤、環境のハード的支援と整備が中心でしたが、これからは社会の中の一員としての地位を確保するための取り組みやサポートが必要であり、



そのための手段として、その有意義な道具としての活用が福祉用具に求められています。あわせて、福祉用具などによって培われ、回復した障害者の「情熱」と「活力」を、障害の如何によらず、「受け入れ」「生かせる」社会作り、「場」が必要になっっているのではないのでしょうか。

電動車椅子に乗り、広がった生活

チューリップ棟チーフ 小林 君代

施設に入所しても、利用者が社会との関わりを閉ざされるのではなく、社会の一員として生活を続けられるよう援助していく事は大切である。

M氏、68才（男性）は、頸椎の障害で手に握力もなく寝たきりの状態（身体障害者1級）で、平成7年に入所。その後、テレビゲームを楽しむうちに指に力が入るようになり、車椅子を自力でゆっくり使用できるようになったが、行動範囲は限られていた。

平成10年、展示の電動車椅子をヘルパーの勧めで試しに乗ってみた。すると握力がなくとも指の操作で使いこなすことができた。それからは介助を必要とする場所でも自力で動く事ができ、苑内は自由に移動できるようになった。

平成11年に電動車椅子を購入し、車椅子の保険にも加入。

本人からは外への外出希望も出てきた。そこで、ヘルパーは本人と一緒に外出時の危険場所、交通ルール等、一人でも外出可能かどうかをアセスメントし、家族へも理解を得て外出が可能となった。同時に自分に自信が付き、自己表現もしつかりされ、今では近くのスーパーに買い物に出かけたり、散歩したり、季節の移り変わりを味わっている。行きたいと思う時、自由に足となって動ける電動車椅子は、M氏にとってなくてはならないものになった。

苑生活においてM氏は、最大限本人のできるところは自力で、必要とするところを介護者が援助する事で生活範囲が広がり、施設で暮らしながら自由に外出し、社会参加を楽しんでおり、彼の人生も充実してきたようだ。

あきらめていた家での風呂が可能に

池田町在宅介護支援センターケアマネージャー 桜田 りえ

ある日、Tさんの奥さんから「夫が自宅の風呂に入りづらくなったので、デイサービスで風呂に入れますか？」という電話が入り、早速自宅を訪問しました。Tさんは徐々に足腰が弱り、家の中では杖を使用しています。奥さんに側で見守られながら、出入りの際は浴槽の縁につかまると

ですが、縁では足が思うようにならなくて水道の蛇口につかまっているそうです。皆

さんのお宅でも水道の蛇口やタオル掛けに思わずつかまっ

てはおられませんか？
このような時は、浴室の壁にしつかりした「手すり」があったら安全です。それで介護保険の居宅介護住宅改修を利用して、浴槽の出入り近くに「手すり」をつける話をしました。そして専門業者と再度訪問し、どの位置につけたら安全か、下地は大丈夫か話し合い、浴室の壁に2カ所「手すり」を取り付けました。これで家の風呂をあきらめていたTさんも奥さんも、安心して自宅の風呂に入れるようになりしました。もちろんデイサービスも利用され、社会生活を広げながら楽しみを増やしておられます。

皆さんもこのような時は担当のケアマネージャーにご相談ください。



福祉用具のうまい活用方法

作業療法士 酒井 里美

介護保険制度がはじまり、世間に出まわる福祉用具の種類や量は増えています。福祉用具を選ぶ時のポイントは次の通りです。

- 1) 使う場所や目的、誰（利用者本人か、介護者か）のために使うのか、その用途を明確にする。ただし介護者側にとって良い福祉用具でも、利用者にとって良いかどうかを検討し、選ぶ。
- 2) 姿勢、頭や胴体の様子、腕や指先や足の動きなど、体のどこがどうなっているから困っているのか、その原因を探り、残存能力を活かせる福祉用具を考える。
- 3) 今の日用品や福祉用具の不便な点を考え、別のものに替えたり、一工夫加えたりする。

分からないこと、不安なことは、福祉用具の専門家（作業療法士、福祉用具プランナーやケアマネージャーなど）に相談し、アドバイスを受けるのもいいでしょう。

寄付金

平成12年4月～平成13年3月

工藤 山田 浅野 植谷 側島 神鳥 山内 若林 水野 平田 へ
 のご 藤田 のご 野の 谷左 島久 鳥ト 内篤 林健 野和 田愛 個人
 家族 瑞穂 二家 玉江 喜夫 子シ 篤一 夫様 子様
 匿能 伊 大 山 水 祖 浅 水 高
 登 藤 の 野 の 田 谷 父 野 上 橋
 百 敦 の ご な の 友 谷 江 千 陸 和
 代 様 家 家 家 恵 す 邦 代 美 子
 名 様 族 族 族 様 子 子 様 様 様

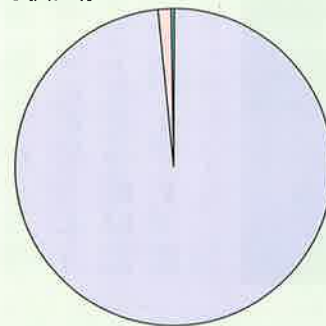
皆様のご厚志は福祉に役立たせていただきます。ありがとうございます。

やすらぎ会様
 田口福寿会様
 神戸町社会福祉協議会様
 大野町社会福祉協議会様
 養老町社会福祉協議会様
 安八町社会福祉協議会様
 大野町老人クラブ様

平成12年度法人会計資金収支決算報告

〈収入〉

(単位:百万円)



〈支出〉

(単位:百万円)

